

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当 9月30日・3月31日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理人事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
公告の方法	下記ホームページに掲載する。 http://www.nsg.co.jp/
会計監査人	新日本有限責任監査法人

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、下記の電話ご照会先までお問い合わせください。

郵便物ご送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話ご照会先	0120-782-031 (フリーダイヤル)

株式併合および 単元株式数変更のご案内

当社は2016年10月1日をもって当社株式10株を1株に併合し、単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

なお、この株式併合および単元株式数の変更に伴い株主様に特段のお手続きをいただく必要はありません。

■株式併合による影響

株式併合により、発行済株式総数が10分の1に減少することとなりますが、純資産等は変動しませんので、1株あたりの純資産額は10倍となり、株式市況の変動など他の要因を除けば、当社株式の資産価値に変動はありません。

■1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、一括して処分し、その代金を端数の生じた株主様に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

なお、端数株式の処分代金支払いについては2016年11月下旬に別途ご案内しております。

買取制度

株主様がご所有の単元未満株式について、当社に対して買取の請求をすることができる制度です。

買増制度

株主様が、当社に対して、ご所有の単元未満株式の数とあわせて1単元(100株)となる数の株式の買増の請求をすることができる制度です。

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
第151期 中間報告書
2016年4月1日～2016年9月30日

「ガラス技術で世界に変革を」

証券コード: 5202

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第151期中間期(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の概況についてご報告申し上げます。

日本板硝子株式会社
代表執行役社長兼CEO

森 重樹



第151期中間期の総括

当期中間期の業績は為替換算の影響を受けるも営業利益は前年同期を大きく上回り概ね当初計画通りに推移しました。キャッシュ・フローも大きく改善しました。総括いたしますと、大きく次の2点に集約されます。

1. 事業改善の施策が順調に進捗しています。これには、VA化(高付加価値製品・サービスの売上に占める割合の増加)が、特に建築用ガラス事業の北米・欧州において進展していること、前年度に決定しました中国、ベトナム等における不採算事業からの撤退・縮小が予定通り実行されていること、および欧州・北米を中心とする自動車用ガラス事業の生産効率改善への取り組みが進捗していることなどが含まれます。長期戦略ビジョンにおいて当社が目指す「VAガラスカンパニー」への変革は着実に進みつつあります。

2. 当期中間期の市場は全般的には前年同期より改善しました。特に欧州では建築、自動車とも昨年度後半からの市場の回復が継続しています。また北米においても好調な市場が継続しており、これらが前年同期比でグループの業績改善に寄与しました。

※連結業績ハイライトについては、本報告書の4ページをご覧ください。

中期経営計画の進捗について

この度2016年度上期決算発表に合わせ、2014年5月に策定しました中期経営計画(MTP)についての進捗報告を行いました。要旨は次のようになります。

- MTP開始後、グループ営業利益は継続的に改善。
- しかし、以下の要因により、MTP目標(ROS*: 8%以上、ネット借入/EBITDA: 3倍)達成には、当初の計画期間(2015年3月期~2018年3月期)からさらに2年要する見通し。

* ROS: 売上高営業利益率(無形資産償却前営業利益ベース)

- ・ 成長ドライバーとしてきた事業(ディスプレイ事業、南米自動車用ガラス事業等)に大きな環境変化。
- ・ 地域により収益改善スピードに格差。

- 現行MTP目標は変更せず、2018年3月期~2020年3月期を「MTPフェーズ2」として設定し、目標必達のための施策をスタートする。
- 「MTPフェーズ2」では、「VA No.1戦略推進」、「成長ドライバーの確立」、「ビジネスカルチャーイノベーション」および「グローバル経営強化」の4つを重点施策とし、目標達成を図るとともに財務基盤の早期安定化と成長の加速を目指す。「MTPフェーズ2」の4つの重点施策は具体的には以下のとおりです。

- **VA No.1戦略推進**: 「成長が見込める分野」と「当社の強みがある分野」でトップポジションを目指す。持てる経営資源を高付加価値(VA)製品の開発とその拡販に注力し、同時に、当社のお客様との関係を強化し、場合によっては戦略的提携も活用しながら迅速な戦略を展開していく。

- **成長ドライバーの確立**: 選択と集中による研究開発の強化を行い、今後有望な複数の成長ドライバーの候補を早期に立ち上げ、すでに立ち上がっているものは拡大させる。建築用では省エネ/創エネ、健康、デザイン性/視認性の機能が求められる分野が有望と想定。自動車用では、自動運転/コネクティッド、UV/IRカット、軽量化等の分野で新たな価値を提供可能。高機能ガラスでは、当社独自の技術や資産を生かし新製品展開や用途開発などで新たな事業を創出することを目指す。

- **ビジネスカルチャーイノベーション**: 全ての仕事の仕方を見直し、リーンな事業体制を作りこむ。そのため、各地域の「ものづくり」体制の強化、研究開発面における顧客視点に基づくグローバル研究開発体

制の最適化、マーケティング面における顧客志向の体制の強化を一層推進する。

- **グローバル経営強化**: グループ全体最適を追求し、グローバル経営を進化させる。そのためには人材開発を推進し、多様な人材を登用すること、柔軟な組織運営と迅速な意思決定ができる組織を作りこむこと、グループ横断的なコスト削減の継続に取り組む。

2014年5月に発表しました長期戦略ビジョンは、「VAガラスカンパニー」に変容・変革することです。VAとは、付加価値を表す英語のValue-Addedの頭文字に由来しています。これは、ただ売上構成におけるVA製品の比率を上昇させるというだけでなく、お客様へのサービスや、社員の考え方・行動など、グループ全体の体制として付加価値を付ける変革を行うということです。VA戦略は着実に進捗しており、これらの長期戦略ビジョンとMTPの目標は変えることなく「MTPフェーズ2」の達成を通じて、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

中間配当について

当社グループは持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当の支払いをすることを利益配分の基本方針としておりますが、当期中間配当につきましては、誠に遺憾ながら実施を見送ることとさせていただきます。株主の皆様には、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。当社グループは、配当が株主の皆様にとって重要なものであることを認識しており、今後、少しでも早く復配できるよう収益改善に全力を傾けていく所存であります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

フロントガラス用高精度プレス工法設備の増設について

今後、自動車分野とITS技術(高度道路交通システム技術)との融合により、ガラスに求められる機能はさらに拡大することが見込まれています。

当社は、舞鶴事業所に、当社独自技術による高精度プレス工法を用いた自動車フロントガラスの生産設備を増設することを決定いたしました。今年中に着工し、来年稼働予定です。

高精度プレス工法は、高温に熱したガラスを一枚ずつ型にあわせてプレス成形する曲げ加工方法で、高い造形性能を有しており、ガラスを深く曲げるまたは立体的に曲げるような難しい成形や、高い精度で設計通りの曲がり具合に成形すること(面精度)が求められる場合に適しています。

今回の増設により、ヘッドアップディスプレイ用など今後増加が見込まれる高精度フロントガラス需要に確実に対応してまいります。



薄膜太陽電池用ガラスの高品質に「サプライヤー表彰」

NSG Vietnam Glass Industries(VGI)社(ベトナム)が、First Solar社より「2016年優秀品質賞」を受賞しました。受賞理由は、VGI社が継続的に品質改善の努力を行い、First Solar社の「サプライヤー品質継続改善」プロセスに粘り強く取り組んだことでした。

First Solar社は、太陽電池モジュールおよびシステムの最新技術を有する、総合的な太陽電池システムの世界的リーダーです。VGI社を含め、当社グループは、透明電導膜をコーティングした高品質ガラスを、First Solar社の先端薄膜太陽電池モジュール生産拠点にグローバルに供給しています。このように、当社グループは、顧客と緊密な協業関係を築き、技術進歩および品質改善に貢献しております。

当社グループは、市場ニーズに合致した高付加価値製品を、今後も積極的に展開し、「VAガラスカンパニー」となることを目指します。



ダイバーシティ・インクルージョンの推進

当社は、ダイバーシティ(性別・年齢・国籍・文化等の多様性)およびインクルージョン(多様な人材が活躍できる組織づくり)の推進に取り組むことを宣言し、この度、ダイバーシティ・インクルージョン推進室を設置しました。

まずは「女性活躍推進」と「障がい者雇用推進」を重点分野として、以下の目標に向けて取り組んでまいります。

- 女性管理職比率: 2020年3月末で2016年比率の3倍
- 障がい者雇用率: 2020年5月末で2016年比率の30%向上

当社グループは、「倫理規範」において「従業員すべてが平等に扱われる多様な従業員構成の促進は、会社を強くすると私たちは信じています」と謳っています。多様な人材が異なる価値観や視点の違いをお互いに認め合い受容し、自らの強みを最大限発揮できる風土と仕組みを整え、誰もがやりがいを持って働くことで、新たな価値創造・イノベーションを起こし、事業を持続的に発展させていきます。

連結業績ハイライト

連結損益計算書(要旨)

	第151期 (中間期) (2016年4月1日~ 2016年9月30日)	第150期 (中間期) (2015年4月1日~ 2015年9月30日)	第150期 (2016年3月期) (2015年4月1日~ 2016年3月31日)
売上高(百万円)	289,798	321,735	629,172
営業利益(百万円)	13,495	6,088	19,362
税引前四半期(当期)利益(△は損失)(百万円)	10,866	△4,667	△37,439
四半期(当期)利益(△は損失)(百万円)	5,114	△1,603	△47,500
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益(△は損失)(百万円)	4,241	△2,738	△49,838
基本的1株当たり四半期(当期)利益(△は損失)(円)	46.94	△30.31	△551.75

注: 第150期の期首に株式併合が行われたと仮定し、基本的1株当たり四半期(当期)利益(△は損失)を算定しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	第151期 (中間期) (2016年4月1日~ 2016年9月30日)	第150期 (中間期) (2015年4月1日~ 2015年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,108	△3,039
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,891	△17,523
(フリー・キャッシュ・フロー)	4,217	△20,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,162	5,323
現金および現金同等物の四半期末残高	39,103	47,004

連結貸借対照表(要旨)

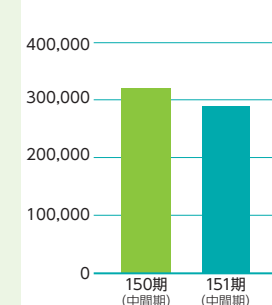
	第151期 (中間期) (2016年9月30日)	第150期 (2016年3月期) (2016年3月31日)
非流動資産	489,324	571,417
流動資産	219,658	240,703
資産合計	708,982	812,120
負債合計	648,859	700,109
資本合計	60,123	112,011
負債および資本合計	708,982	812,120

事業別連結売上高構成比

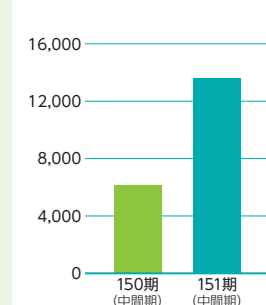


● 建築用ガラス 欧州	15%
● 建築用ガラス 日本	11%
● 建築用ガラス 北米	6%
● 建築用ガラス その他地域	9%
● 自動車用ガラス 欧州	23%
● 自動車用ガラス 日本	9%
● 自動車用ガラス 北米	14%
● 自動車用ガラス その他地域	5%
● 高機能ガラス	8%

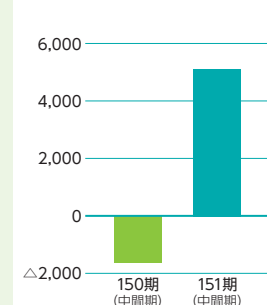
売上高



営業利益



四半期損益



注: 当社は、第146期より、国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。上記に記載の営業利益は、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

会社概要 (2016年9月30日現在)

商号	日本板硝子株式会社	設立	1918年11月22日
本店	〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) TEL: 03-5443-9500	従業員数(連結)	27,156人
		資本金	116,452 百万円
		上場証券取引所	東京 (証券コード: 5202)
		お問い合わせ	http://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us

役員 (2016年9月30日現在)

当社は、指名委員会等設置会社制度を採用しています。

取締役

社外取締役 取締役会議長	ギュンター・ツォーン	■ 指名委員会	■ 監査委員会	■ 報酬委員会
社外取締役	山崎 敏 邦	■ 指名委員会	■ 監査委員会 (委員長)	■ 報酬委員会
社外取締役	木 本 泰 行	■ 指名委員会	■ 監査委員会	■ 報酬委員会 (委員長)
社外取締役	松 崎 正 年	■ 指名委員会 (委員長)	■ 監査委員会	■ 報酬委員会
取締役	森 重 樹	■ 指名委員会		■ 報酬委員会
取締役	クレメンス・ミラー			
取締役	諸 岡 賢 一			

執行役

代表執行役社長兼CEO	森 重 樹	執 行 役	藤 巻 和 彦
代表執行役副社長兼COO	クレメンス・ミラー	執 行 役	日 吉 孝 一
代表執行役副社長兼CFO	諸 岡 賢 一	執 行 役	岸 本 浩
執 行 役	シャーリー・アンダーソン	執 行 役	ヨハン・セトルマイヤー
執 行 役	トニー・フラッジリー		

グローバルネットワーク -主要製造拠点-

当社グループは世界各地に製造拠点をもち、その製品は世界130カ国以上で販売されています。



株式情報 (2016年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	1,775,000,000 株
発行済株式の総数	903,586,999 株
株 主 数	73,073 名

注: 当社は2016年10月1日付で株式併合を行いました。

大株主

株 主 名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	37,718,000	4.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	27,573,000	3.05
MSIP CLIENT SECURITIES	23,088,301	2.55
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	20,253,799	2.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口1)	10,530,000	1.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	10,420,000	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口6)	10,414,000	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口2)	10,358,000	1.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口3)	10,298,000	1.13
JP MORGAN CHASE BANK 385151	10,268,413	1.13

所有者別の持株比率

